

## (12) 既存都市のかかわりについて

### 想定課題

国会等の移転に伴い、様々なクラスターが整備されていくことになるが、これらの新しい都市づくりと既存の都市のあり方はどうあるべきか。

### 対応方向

新都市建設と既存都市との関わりは、移転エリアがどのような範囲になり、どのような機能を有するかということが判明した時点で具体化するものです。

しかし、少なくとも新都市づくりの初期の段階においては、移転してきた居住者の生活の利便、サービス、娯楽などを確保するためには、既存都市の機能に頼らざるを得ないのも事実です。

また、移転にともなう転入者の想定には、各種のサービス産業従事者も含まれていますが、那須地域にはそれぞれに特徴を持った既存の小都市があることから、最小の費用でコンパクトな移転という考えからみても、既存都市の機能で相当の部分を賄えるものと思われます。

このため、既存の都市は、新しい都市づくりの一翼を担うものであり、新都市がある程度成熟した段階においても、相互に補完・連携しあえる機能分担が大切であると考えます。

したがって、地元においても、既存市街地の再編や商業、サービス業の振興など移転を契機とした街の活性化という観点からの構想を描いていく必要があります。